

Q

企業側の疾患に対する理解を深めるための学習はどうしたらよいですか？

A

会社の中で学習の機会を設けることは重要だと思いますが、学習の場だけでは伝わりきらない部分も多いので、なるべく支援者が入って具体的な症状などを現場で伝える機会を設け、少しずつ理解いただくのが良いと思います。

Q

職場の同僚として心がけることはありますか？

A

基本的には、それぞれの方が本当のところを何でも話せるというのが前提ですが、良い部分も課題の部分も正直に話せる関係性を作っておくことが重要です。

Q

会社側に障害をどう伝えたらよいですか？

A

会社側にどれだけの理解度があるかによります。全く理解が無いところに症状名だけ並べて説明しても理解には至らない。職場の立場に立って、場面ごとにどういったことが起きやすいかということを説明できるとよいと思います。

Q

脳梗塞の後遺症で左脳障害、数字の読み間違いが多く記憶障害もあります。

生活の中での効果的なリハビリのヒントがあれば教えてほしい。

A

左脳を障害されているということになると一般的には失語症が出やすいかと思います。

失語症は長い期間をかけて回復していきますので、とにかく言葉に触れ、仕事や家庭生活でも使うようにすることが重要です。詳細なリハビリに関しては、症状をよく知る主治医や言語聴覚士からお話を聞くと良いでしょう。記憶障害に関しては、一生懸命、聞いて覚えようとされる方も多いですが、できるだけメモに書くことをおすすめします。書くことと記憶のリハビリにならないのではないかと思われる方もいますが、そうではありません。書くことで逆に記憶にも定着し

ていきやすくなります。また、書くだけではなく、書いたメモを見返すことも重要です。そうすることで、記憶に残っているものも呼び起こすきっかけとなり、結果的に記憶を引き出すトレーニングになります。

Q

就労支援事業所が少ない市町村に、自ら働きかける方法がありますか？

A

一般的に就労支援機関は、都市部に多く、地方には少ない傾向があります。

本来は、誰もがサービスを受けやすい社会になるべきですが、現在の制度の中では、ニーズが多い地域に事業所はできてきます。そのため、就労支援事業所が必要なことを一人だけではなく、たくさんの方々と一緒になって必要性を働きかけることが有効なのではないかと考えています。

Q

何があってもトイレに行って我慢、歯を食いしばって我慢、リハセンからも継続を促されました。そのためにこれから意識することがあれば教えてください。

A

本当に大変なお気持ちの中、お仕事を継続されているということが伝わってきます。どうしても社会生活を送っていくと、感情がコントロールしきれないことが出てくるかと思います。そうした際に、直接、相手にぶつけてしまうと、トラブルとなり、結果として、自分自身が損してしまうことになりかねません。そうした意味では、その場で、我慢されているのは適切な行動ではないかと思います。本当にご苦労されているのだと思いますので、簡単な言葉では片付けられませんが、よくお伝えさせていただくのは、「過去と他人は変えられないが、未来と自分は変えられる」という言葉で、そうした際に、他人は変えられないということを何度も言い聞かせ、自身が変えられる行動は何かを考えるようにすることが大切だと思っています。具体的にご自身がどのように行動したらいいか、気持ちを処理したらいいかに関しては、ご自身のことをよく知る主治医や支援者に相談してみることをおすすめします。

Q

親が脳梗塞から失語症を発症、ちょうど障害者デイケアの仕事をスタートさせた自分がこの病気と向き合うために勉強しておくの良いことがあれば教えてください。

A 失語症を含め、高次脳機能障害の基本的な障害特性を理解しておくことは、何等か役に立つと思います。ただ、障害特性は、あくまで多くの方々に生じやすい様々な症状をカテゴライズしただけなので、個人個人で全く同じということはないものです。また、障害とは、「個人に所属するものではなく、個人と、個人を取り巻く環境が接する際に生じる問題である」というように、環境によっても変わってきます。つまり、その方、その方一人ひとりにしっかりと向き合って理解することが最も重要だと思っています。その際、色々わからないことが出た際には、専門家や書籍などを読んで解決していただければと思います。

Q 夫が脳梗塞で介護 4, 失語症はあるが歩行と食事は可。高次脳機能障害の判断はどう決められるのですか？

A 一般的に高次脳機能障害については、診断基準に基づき、主治医により診断がされます。今回のご質問の判断というのが、行政的な高次脳機能障害として、精神障害者保健福祉手帳に該当するかの判断ということであれば、通常は、発症 6 ヶ月が経過した時点で、診断基準に基づき、主治医が判断することになります。そのため、一度、主治医に相談されるといいでしょう。それでも解決されない場合は、一度、高次脳機能障害支援拠点機関に相談してみてください。

Q まとめの部分で「支援策において、医療と福祉の連携もうまくいっていない」と述べられたが、支援者から見てどういったことがあるか知りたい。

A 医療と福祉との連携では、①受傷後、医療機関で治療・リハビリを行った後、地域に出ていく際に障害福祉サービスにうまく繋がらない場合、②地域の障害福祉サービスが十分に医療機関と連携を取ることができない場合などがあります。特に、回復期リハビリテーション病棟を有する医療機関は、多くの患者様が 65 歳以上で介護保険サービスを使われています。また、原則、介護保険サービスが使える方は、介護保険サービスを優先して利用することになっています。そのため、就労の可能性があっても介護保険サービスを利用し、就労系障害福祉サービスに繋がらず、結果として復職できなかつたり、復職してもトラブルになって離職してしまつたりする場合があります。

Q 自分だけが不利益な支援を受けているなど、被害的になったり感情コントロールができないことが多い方への対応方法を教えてほしい。

A 感情のコントロールに課題がある方への対応は、本当に大変かと思います。一般的に感情的になっているときには、落ち着いてお話をすることができなくなります。そのため、まずは、クールダウンすることが重要です。そのうえで、①信頼関係の構築、②意識付け、③対処法を身につける、④正しい行動の強化ということが重要な視点になるかと思います。信頼関係はすぐに構築されるものではありません。本人の話を聞き、事実と思いを整理しながら、一緒に問題解決しながら、関係が作られていくと考えています。意識付けでは、「事実の確認」「損得話」「トークンエコノミー」など様々な手法を組み合わせで対応に当たります。ご本人が「支援者の言う事を聞いてみよう」「今の自分が変わらないといけない」と思うようになってはじめて、対処法と一緒に考えていけることになります。そして、支援者一人で関わるのではなく、主治医、家族、相談支援従事者、高次脳機能障害支援拠点機関など、関わる皆さんと一緒に支援していくことが重要です。

Q 回復期病院に従事。復職支援の際、家族からのヒヤリングや状況に合わせた情報提供など、病院スタッフで面談をしながら取り組むが、ヒヤリングの難しさ、面談後のことが不透明で心配に思うことが多いです。入院中にもっとできる支援があれば教えてほしい。

A 入院中にできることとしては、まず、訓練内容と実際の仕事内容を結びつけ、訓練を行うことが重要です。そのうえで、病院で起きていることをご本人・ご家族にできるだけ具体的に説明すること、それらが仕事場面ではどのようなことが起こるかも説明することだと思います。とはいえ、病院は、時間的にも環境的にもできることに限界があります（就労支援機関も限界があります）。加えて、復職後に職場でどのように働いているのかまで知る機会が限られるということも多く、病院でノウハウが蓄積されにくいところがあります。そのため、復職後、心配が残る方に関しては、何とかその後の支援体制を検討しておくことが重要です。名古屋市総合リハビリテーションセンター（当センター）に来られることができる方であれば、当センターへお繋ぎいただければと思っています。難しい場合には、障害者職業センターや障害者就業・生活支援センターにお繋ぎするののも一つの方法です。

Q

働き甲斐のある就労に結び付いていないというのは、こういったことがあげられますか？

JC の活動数が少ない理由は？ 就労支援事業所を選ぶ際に気をつけることがあれば。

A

働きがいのある就労に結びついていないというのは、障害者雇用率を満たすだけで、採用していて、仕事らしい仕事は何もしないで過ごしているようなところがあるということです。

障害者雇用率制度は、現代の日本においては必要な制度だと思っていますが、障害者雇用率がすごいスピードで上昇する中で、障害者雇用ビジネスも増え、その一部には仕事らしい仕事をしていないところもあるということです。

ジョブコーチ(JC)が増えない理由は、いくつかありますが、もっとも大きな理由は運営面で報酬が見合わないと言うことだと思います。本年度から助成額もあがりましたが、訪問して初めて助成金がもらえる仕組みなので、安定的に人を雇用するのが難しい事業といえます。また、近年の就労移行支援事業の主な対象者が精神障害及び発達障害となっていて、JC のように職場に頻回に訪問する支援が少なくなっているのも一つの要因です。

就労支援事業所を選ぶ際に気をつけておくこととしては、障害福祉サービスは多くの機関が利用者を集めたいと考えており、事業所によっては、「弁当が無料・送迎がある・楽しい仕事」など表面上だけいい話をして、実際の支援が十分に行われていない事業所があります。そのため、地域の支援機関をよく知る相談支援事業所に相談するなど、周囲の意見も参考にして選定することをおすすめします。

Q

自己理解を進めるうえで、稲葉さんの成功事例及び失敗事例があれば、また大切にしているポイントなど教えてください。

A

自己理解を進めるうえで、成功事例及び失敗事例ともにたくさんありますが、うまくいかなかった事例は、ご本人との信頼関係が構築できなかったり、自己理解する過程において精神症状がひどくなってしまったケースが思い浮かびます。いずれも私自身が十分にその方々のことを理解しきれなかったことが大きかったように思います。自己理解を支援していくうえで、大切なことは、対象者のありのままを理解する・認めること、同様に自分自身もありのままを理解する・認めることが重要だと思っています。

もちろん、支援者である以上、なんとかいい方向に向かってほしいと思っていますので、1事

2024.11.30 あいち高次脳機能障害リハビリテーション講習会 質疑応答の内容

例ごとで成功・失敗を振り返り、その要因を明らかにすることは忘れてはならないことです。一方で、その方の人生のほんの一部しか関わっていないのも事実で、短期的な成功・失敗だけではなく、10年・20年・30年という長いスパンでも支援ということも考えていく必要があると考えています。